



ZENSOUSEI 21th

平成11年6月8日第三種郵便許可(年4回2・5・8・11月の10日発行) とうせい第174号平成28年8月発行

SOUSEI



2016.08 No.174

「特集」

熊本地震の今



〔特集〕

熊本地震の今

青年僧侶として、今、何をなすべきか

〈熊本からの声〉

「炊き出しステーション」により
早めの炊き出しが可能に

の度、「熊本地震」発生当初から、全国の御寺院様、全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）会員諸師、各曹洞宗青年会様には、多くの温かいご支援をいただき、心より厚く御礼申し上げます。

2度にわたる震度7の激震から3ヶ月が過ぎた今も、未だに余震が収まらず、多くの方がたが避難所や車中泊を強いられています。その一方で、生活や経済基盤の立て直し等、復旧・復興の足取りが少しずつですが進み始めています。

地震発生以来、熊本県曹洞宗青年会（以下、熊曹青）は、「青年僧侶として、今、何をなすべきか」に心を留めてまいりました。熊曹青会員も被災しましたが、初動では、速いペースで支援活動が続け、会員に無理をかけました。会員が密に連絡を取り合い、寺院・避難所・病院などに不足する支援助物の搬

入を、寸断された道路を縫いながらも行いました。その他の活動は、被災寺院の清掃、瓦礫撤去、解体、避難所での炊き出し、また行茶活動を行っています。

熊本地震は、熊本県民にとって「まさか」の地震であり、私も含め、備えがほとんどありませんでした。ライフラインが断たれると、直ぐに食糧・水不足という事態になりました。本震（4月16日）と呼ばれる2度目の地震後、当山の駐車場は自然と避難場所になり、井戸水があった為、飲料水やトイレが使用でき、約70台の車が車中泊する生活が始まりました。この時点で炊き出しが出来ればと思いましたが、備えがありませんでした。

今回、本震発生後3日目から炊き出し活動が出来たのは全曹青より「炊き出しステーション」を届けていただいたお蔭です。全曹青の安達会長、酒井副会長の迅速な行動に感謝申し上げます。先日、九州曹洞宗青年会理事会で、各県が「炊き出しステーション」を1台ずつ備えてはどうかと提案されていたきました。今後、熊曹青で持つ予定です。

この震災で九州にストックヤードが無いことがわかりました。全国にあった備蓄の食料や物資を急遽送っていただきましたことを有難く思っております。昔、売店として使っていた当山の倉庫内に有る物を処分、清掃しストックヤードに変えました。これにより支援助の準備が整い、人や物の出入りが激しくなりました。

ある山間部の避難所での炊き出しで、代表の方より「この御恩は一生忘れません」という言葉をいただきました。思いもよらない言葉に、謙虚に信念を持って支援助活動をしなればと強く思いました。

また、5月初めに、他宗派寺院の本堂解体作業に熊曹青で入らせてもらいました。解体作業中、檀信徒の女性の方が、寺が心配で見に来られるなり、その場で泣き崩れられました。その寺院には3人の子どもがおり、いつも天真爛漫に境内で遊んでいましたが、心のより所と教えられていた本堂が解体されるのを見つめる表情が暗く、私は親しい間柄にも関わらず声もかけられませんでした。辛

い作業でした。この子ども達や檀信徒の方がたのためにも一日も早い復興を願います。

地震発生以前は、炊き出しの経験もなかった熊曹青会員が今も、支援助活動が続いています。被災地の状況は一日一日、変わっていきます。色々な方がたの声を聞き、自分達の間で見えて、今何が必要なのかを考えながら、今後も活動していきたいと思えます。これまでも当会の活動のことで精一杯でした。私自身の力不足で、遠方より沢山のご支援助に十分な対応が行き届かず失礼があったと思います。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

災害は、平等ではありません。被災された状況は一人一人違います。その一人の心に寄り添える青年会でありたいと思えます。

文／熊本県曹洞宗青年会会長 永野英寿

〈大分からの声〉

情報収集や活動状況の
取りまとめを強化

の度の熊本・大分大地震におきまして被害にあわれた方がたにお見舞い申し上げますとともに、全国より大分県曹洞宗青年会に対し多くのご支援助や励ましのお言葉を頂戴いたしましたこと、厚く御礼申し上げます。

大分県別府市並びに由布市では本震時、震度6弱を記録し、多くの建物や道路が被害を受けるなど、地震発生直後は町全体が混乱の中になりました。

そこで大分県曹洞宗青年会では災害対応の

拠点を開設し、情報収集や会員の活動状況の取りまとめを行い、「今我々にできること」を考
えながら様々な活動を開始いたしました。

湯布院の避難所では、行茶活動を行いながら避難者の方が今一番必要なものなどを聞いて廻りました。それと同時に、九州各県の青年会諸師とともに熊本市内の避難所を廻って炊き出し活動を行うなど、現在も力を結集して活動を進めています。

現在、大分県内では余震も収まり、避難所も閉鎖され、損傷した建物や道路の復旧・復興が進んでいます。しかしながら激震を経験された方の中には、今後の余震が心配でなかなか熟睡できない、夜になると動悸がするなど、心身の不調を抱えられている方も多くとお聞きします。

このように地震で傷ついたところのケアを今後どのように進めていくのか、我々に託された大きな課題であると思います。大分県曹洞宗青年会では、これからも被災された方のところに寄り添い、本来の安心を取り戻せるためのお手伝いを進めてまいりたいと考えております。引き続き皆様からのご支援を宜しくお願い申し上げます。

文／大分県曹洞宗青年会会長 楠 正寛

〈九州からの声〉

「お茶会」傾聴活動と

お子様向け炊き出しを実施

地

震災発生当初から全国曹洞宗青年会の安達会長、酒井副会長が炊き出し道



御船町カルチャーセンターでの炊き出し



九州曹洞宗青年会の炊き出し

具を持参し、大人7人につきオニギリ1つの配給の状況の中でいち早く被災地に訪れ、炊き出しをしていただきました。当初250人分からは始めた活動は徐々に口コミで広がり、最終的には750人分の食事の提供となり、地元の方に大変喜んでいただきました。

九州は比較的地震が少なく、ストックヤードも炊き出しの道具類も持っていない状況でありましたので、持参いただいた道具を引き継ぎ、引き続き炊き出しをさせていただいております。現在、熊本市内は随分と落ち着いてきたものの、郊外においては、いまだ復旧が進まない地域もあり炊き出し支援を継続していく予定です。同時に避難所では「お茶会」傾聴活動も始めました。更には業務用かき水機を購入し、お子様向けの炊き出しと傾聴もまた始めております。

熊曹青の代理として九州曹洞宗青年会が義捐金の窓口事務をしておりましたが、先日の役員会を以て代理窓口業務を終了いたしました。熊曹青の提案により、熊本へ集まった義捐金は九州各県曹青会の炊き出し道具の装備の充実を図るため九州曹青会へ寄付されました。今後の熊本への復興支援と危惧される南海トラフ地震への備えとして装備の充実を図ります。

「九州はひとつ!」のスローガンのもと、九州曹洞宗青年会はますます結束し、復興支援に邁進してまいります。今後ともご支援どうぞ宜しくお願いいたします。

文／九州曹洞宗青年会会長 須川憲司



平成28年熊本地震 支援活動報告

以下に記載する活動報告は、全国曹洞宗青年会災害復興支援部に報告があった5月末日までの支援活動報告です。この他にも5月18日の南阿蘇村での炊き出し(熊本県曹洞宗青年会)をはじめ、青年会・個人を問わず多くの青年僧侶が被災地に入り支援活動を行っています。また、6月も炊き出し・行茶活動が行われました。

【4月19日】

・炊き出し(熊本市)

熊本曹青5人 全曹青2人

【4月20日】

・炊き出し(熊本市)

・寺院清掃(苓北町)

・公民館・民家清掃(城南町)

熊本曹青11人 長崎曹青1人

大分曹青3人 鹿児島曹青3人

全曹青2人

・炊き出し(熊本市)

大分曹青2人

熊本曹青、その他青年会員12人程度

【4月21日】

・炊き出し(熊本市)

・寺院清掃(苓北町)

熊本曹青11人 福岡曹青2人

佐賀曹青3人 鹿児島曹青2人

・炊き出し(熊本市)

大分曹青2人

熊本曹青、その他青年会員12人程度

【4月22日】

・炊き出し(熊本市)

熊本曹青13人 福岡曹青1人

佐賀曹青2人 岐阜曹青1人

【4月23日】

・炊き出し(熊本市)

・寺院清掃(熊本市)

熊本曹青12人 福島曹青1人

千葉曹青1人 岐阜曹青3人

鳥取曹青3人 大分曹青2人

長崎曹青1人

・寺院瓦礫撤去(大分県由布市)

・小学校へ支援物資搬入(大分県由布市)

大分曹青3人

【4月25日】

・炊き出し(熊本市)

熊本曹青12人 福島曹青1人

千葉曹青1人 岐阜曹青3人

鳥取曹青3人 大分曹青2人

長崎曹青1人

石川曹青、千葉曹青、山形曹青

【4月26日】

・炊き出し(熊本市)

熊本曹青14人 京都曹青10人

・寺院清掃(熊本市内)

大分曹青2人

その他青年会員10人程度

【4月27日】

・炊き出し(西原村)

熊本曹青3人

【4月28日】

・ボラセン運営サポート(益城町)



野菜の切り込み



炊き出しに並ぶ地元の方がた



温かい、出来立ての中華丼を提供



アルファ米を盛り付け

・寺院清掃(熊本市)

・炊き出し(熊本市)

石見曹青1人 鹿児島曹青1人

熊本曹青14人 大分曹青2人

福岡曹青1人 全曹青1人

【4月29日】

・ボラセン運営サポート(益城町)

・炊き出し(熊本市)

熊本曹青8人 大分曹青2人

四国曹青3人

【4月30日】

・行茶傾聴(大分県別府市・由布市)

大分曹青2人

【5月3日】

・行茶傾聴(大分県由布市)

大分曹青7人

【5月6日】

・炊き出し(御船町、熊本市)

熊本曹青1人 鹿児島曹青1人

兵庫第二曹青4人 全曹青2人

・行茶傾聴(大分県由布市)

大分曹青4人

【5月10日】

・行茶傾聴(大分県由布市)

大分曹青7人

・炊き出し(御船町)

鳥取曹青1人

岡山曹青2人 いずも曹青6人

【5月11日】

・ボラセン運営サポート、傾聴(益城町)

いずも曹青7人

【5月12日】

・ボラセン運営サポート、傾聴(益城町)

いずも曹青6人

【5月13日】

・炊き出し(御船町)

熊本曹青6人 福岡曹青5人

佐賀曹青9人 宮崎曹青3人

長崎曹青7人

・行茶傾聴(大分県由布市)

大分曹青5人

【5月18日】

・炊き出し(南阿蘇村)

熊本曹青他11人

【5月20日】

・炊き出し(御船町)

熊本曹青5人 福岡曹青7人

佐賀曹青5人 宮崎曹青3人

長崎曹青5人 鹿児島曹青2人

大分曹青3人

【5月26日】

・炊き出し(御船町)

熊本曹青10人 福岡曹青3人

佐賀曹青5人 鹿児島曹青2人

大分曹青3人

6月一杯で、熊本県曹洞宗青年会としての炊き出し活動は、一旦お休みとなりました。被災寺院の修繕や片付けの対応を継続しながら、7月・8月のお盆の時期を経て、行茶傾聴をメインに活動される予定です。



応援メッセージが書かれたネパール国旗とともに



手を合わせ、待つ

東

日本大震災以降、大きな自然災害に備え全国5カ所に整備された寺院防災ストックヤード。寺院が避難所になった場合、また近隣地域の住民の為の備えであるとともに、この度の平成28年熊本地震では、遠隔地で自然災害が発生した際の初期救援活動に寄与いたしました。

全国曹洞宗青年会の安達会長・酒井副会長が長野県長谷寺様の炊き出しステーション・アルファ米を含む非常食を持参して陸路熊本市内に入り、熊本県曹洞宗青年会様・九州曹洞宗青年会様と協働で熊本市内での炊き出しがスタートしました。また、三重県熊野市の鬼頭宝徳師には、三重県と静岡県のストックヤードから炊き出しステーションなどを輸送いただき、福島県のストックヤードからは非常食が輸送されました。岩手県の石ヶ森桂山師からは、ストックヤードの非常食とともに地元社会福祉法人の非常食も併せてお送りいただきました。

運び込まれた炊き出しステーション・発電機・非常食などは、協議の結果、熊本県曹洞宗青年会様と九州曹洞宗青年会様で継続して利用いただくこととなり、6月末まで行われた炊き出しで活用されました。特に調理環境が整っていない場所での炊き出しには、現地で組み立てられ、風除けにより屋外での調理も容易な炊き出しステーション、水かお湯を使うことで1箱およそ50食分のご飯が15分で出来るアルファ米などは、調理時間の短縮・手順の簡略化、

寺院防災ストックヤード 初期救援活動に寄与



炊き出しに使用された器材セット



各地のストックヤードから搬入された炊き出し器材、非常用食料・水、発電機



炊き出しで使用されるアルファ米

輸送の負担軽減にも寄与いたしました。

寺院防災ストックヤード、またこれに準ずる備えは、宗務所様単位などで整備されているケースもあり、自然災害への備えは一步一歩進められています。しかしながら、現在全国5カ所に設置されているストックヤードは東日本(岩手、福島、長野、静岡、三重)に集中しています。その為、今回の熊本地震においては長距離輸送が必要となり、非常食や炊き出し器材を現地に送るのにタイムラグが生じました。また、当該青年会会長の下に大量の支援物資が届いたことも、一寺院の許容範囲を超えた物量になってしまい、また当該地域の寺院自体も被災されていることを考えると、改善すべき点と考えます。

一定の範囲内で自然災害に備える機能をそれぞれが備えておくこと、宗務所・青年会・教区などを基本として非常時の連絡体制を想定しておくこと、また、被災された地域と支援される地域を繋ぐ連絡・調整機能が素早く構築されること。課題は山積しておりますが、一つ一つ整備していくことが、阪神淡路大震災以降毎年のように発生する大規模な自然災害(地震、台風やゲリラ豪雨などの水害、火山噴火、大雪など)の被害を軽減し、被災された方に寄り添える備えとなります。災害復興支援部としても、これらの課題に取り組んでまいります。

文/災害復興支援部事務局長 城市泰紀

宗派のノウハウを生かした被災地支援で ひとときの日常と共生の思いを提供



現地ボランティアの皆さんとともに

改めて、この度の災害により被災され
ました方がたに、心よりお見舞い申
し上げます。また、ご自坊、各寺院檀信徒
の皆様、身近な方が被災されているにもか
かわらず、支援活動に従事されている地元
青年会の皆様には謹んで敬意を表します。
そして、全国からのボランティア基金へ
ご協力、救済物資や支援活動にご助力た
まわり、深く感謝いたします。

全曹青では、これまで継承されてきたボ
ランティア委員会から災害復興支援部へと
発展し、平成17年能登半島沖地震からはじ
まった行茶活動、平成23年東日本大震災で
は大きな転換期を迎え、後方支援体制の構
築に力を注いで参りました。この歴史のな
かで私たちの支援活動は、被災地域周辺の
各青年会と協力し合い、生活基盤の回復、

安心への環境作り、復旧、復興に向けた「被
災者」「被災地」「被災地で復興支援活動にあ
たる人」への中継支援、後方支援活動を主た
る活動として参りました。

災害発生時に私たち青年僧侶には、なに
ができるのか。瓦礫の片付けや行茶などの
活動とともに、炊き出しを得意とする青年
会が多くあります。これは僧堂や緑蔭禅の
集いなどにおいて典座寮を経験された方が
全国におられ、一度に沢山の食事を提供で
きるノウハウをお持ちであるからだと考え
ます。他宗派の修行道場では修行僧が食事
を作る機会は少ないようで、先日開催され
た全日本仏教青年会の熊本地震についての
情報交換会では、多くの質問から各宗派の
導入に向けた関心の高さが伺えました。
東日本大震災を機に進めておりましたス

トックヤード事業はこの度の災害において、
炊き出し活動の力を大きく発揮することが
できました。これは、全国5カ所の協力寺
院にお寺を中心とした防災拠点を目指し、
約100人が行政の支援が来るおおよその
目安である72時間が生活できるよう備蓄す
るものです。地域の中心としての寺院のあ
り方を見つめ直し、防災を通じた地域との
繋がりを考える趣旨も兼ねています。今回
の災害では、この備蓄機材を即時に現地へ
運び、初期段階でニーズが多い炊き出しに
活かすことができ、現地で活動される青年

全曹青ボランティア憲章

菩薩行を実践する私たち青年僧侶が
ボランティア活動を推進するにあたり、
世の中の苦しみや悲しみと向き合い、
寄り添い、地域や社会のさまざまな課
題克服のために意識を共有し、叡智を
結集して平和で心豊かな社会の実現を
願って以下のように努力する

1. 私たちは仏教徒としての自覚と責
任を保ち、自己の研鑽に務め、と
もに学び合うことを目指します。
(学び合う)
2. 私たちは地域の人々との連携を深
め、共助の心を育む活動を目指し
ます。(助け合う)
3. 私たちは宗教、人種、性差、環境
あらゆる相違を乗り越え、お互い
を理解し合い尊重する活動を目指
します。(理解し合う)
4. 私たちは一人一人の尊いいのちの
ために、お互い支え合う社会の実
現を目指します。(支え合う)

会の後方支援に大きく役立ったと考えてお
ります。災害という非日常のなかで、一時
の日常を共有できる行茶や炊き出し活動は、
共に生きるという関係を深める時間が提供
できる僧侶としての重要な支援のひとつと
考えます。今後この事業の周知に務め、
各青年会や宗門ご寺院様との協働した支援
活動に活かしていきたいと存じます。
これまで培ってきた経験を力に変え、災
害時に私たち青年僧侶ができることはなに
かを考え、被災地に寄り添う活動について
考えて参ります。引き続き、ご支援ご協力
を宜しくお願いいたします。

文／会長 安達瑞樹

寺院防災ストックヤード

※以下は共通備品、このほかにも各自で設置備品
あり。発電機以外は、約55万円程度で設置可能。

1. 炊き出しステーション(寸胴、お釜、五
徳2器、風よけ、台のセット)
 2. 発電機(二戸建て住宅一軒がまかなえる
程度の出力)
 3. 食料 アルファ米600食(熱湯を注ぎ15
分で炊きあがる、配食容器、器物のセット)
備蓄用缶詰600食 保存水600本
 4. 生活用品 簡易トイレ9箱 タオルなど
- 現在、全曹青が設置している寺院
- | | |
|--------|------|
| 岩手県山田町 | 龍泉寺様 |
| 福島県伊達市 | 成林寺様 |
| 長野県上田市 | 長谷寺様 |
| 静岡県裾野市 | 光明寺様 |
| 三重県熊野市 | 光明寺様 |

曹洞宗兵庫県第2宗務所青年会20周年記念
併修 全国曹洞宗青年会 禅文化学林

『支え合う 希望舞台「焼け跡から」 を通じて災害復興支援を考える』



平成28年7月3日から4日の日程で「曹洞宗兵庫県第2宗務所青年会20周年記念 併修 全国曹洞宗青年会 禅文化学林」が開催され、7月3日午後2時から、出石皿そばで有名な兵庫豊岡市出石町にある近畿地方最古の芝居小屋・永楽館で、曹洞宗兵庫県第2宗務所青年会（以下、兵二曹青）20周年記念舞台「焼け跡から」の上演がありました。当日は大変蒸し暑く、時折激しく雨が降る中ではありますが、一般の方がたにも大勢足を運んでいただきました。

劇団・希望舞台による「焼け跡から」を鑑賞し、私は何度も涙があふれてきました。この演劇は、藤本幸邦老師（※）と戦争孤児たちが出逢い、時代と共にがきながら当時を生き抜く感動の物語であります。戦争で両親を失った子どもたちが、その日の食べるものを何とかして手に入れようと必死に生き抜く姿。空襲で両親、または我が子を亡くした人たちがそれぞれが葛藤する姿。戦争は終わっても、身内もなく一人生きる



ためにもがき苦しむ姿に、自然と涙があふれてきました。会場からも時折、すすり泣く声が聞こえてきました。家族がいることや食べるものがあることが、決して当たり前ではないということ、そして戦争は絶対してはいけないことを改めて考えさせる演劇でした。



上演後は、城崎温泉の西村屋ホテル招月庭に移動して祝賀会が行われました。

7月4日午前9時から、前日に続き西村屋ホテル招月庭で、仏祖諷経を兵二曹青第10代会長河合正志師の導師でお勤めしました。引き続き、全国曹洞宗青年会(以下、全曹青)会長安達瑞樹師の導師で、日本全国で起こっている天災によって犠牲になられた方がたの慰霊法要をお勤めしました。

午前9時35分からは、研修会第一部「兵二曹青歴代会長のグループトーク」が行われました。平成7年に起こった阪神淡路大震災でのボランティア活動をきっかけに発足した兵二曹青。最初に初代会長平岩浩文老師からは、創立時の苦労話や兵二曹青が主体になって続いている阪神淡路大震災の慰霊法要について話がありました。その後歴代会長から、各期の印象に残っている出来事やボランティア活動に対する熱い思いなどが話されました。最後に平岩老師より、続けること、受け継ぐことを忘れるな、そして人と人との間に垣根を作らずつながりを今一度大切にするようにと青年会員に対して叱咤激励をいただきました。

午前10時45分からは、研修会第二部「青

年会として「災害発生時の対応」と題し、曹洞宗復興支援室分室主事/全曹青災害復興支援部アドバイザーである久間泰弘師の講演が行われました。分室の活動内容として、特にストックヤードについて、画像を

投影しながら念入りにお話をされました。ストックヤードの種類やどのようなものを備蓄しておくとき良いのか、備品の管理や定期的な更新、そして備品が地域の為のものであることを広く共有する為にも、平時から活用していくことの大切さをお話しされました。ストックヤード設置の効果として、マニュアルではない目に見える形として防災意識が高まる点や、寺院が地域の命と暮らしをつなぐ場所になることで、コミュニティの重要性がより伝わり、社会資源としての寺院であるという公益性が生まれることを強調されました。そして、今自分がどこにいて何ができるのかということ、まずは話し合っていくことが必要であると話されました。

続いて、被災地の子どもたちの現状とアプローチについて、「サイコロジカル・ファーストエイド (Psychological First Aid)」以下「PFA」を紹介されました。PFAとは、

心理的応急処置を目的とするもので、極めてストレスの強い出来事を体験した人たちに對して、どのような言葉をかけ、どのような行動をとればもっとも支えとなるのかを考えて作られたものです。また同時に、どのような言葉や行動が他の人びとを不必要に傷つけないのかについても書いてあります。これらのスキルは、災害時において心の支援の専門家ばかりではなく、一般のボランティアにも必要とされているものです。子どもの中には、地震などの大きな力で日常が壊された経験は、私たち大人の心よりも深く刻み込まれているそうです。まずは何よりも、そばにいて寄り添うことの重要性を話されました。

最後に、私たちにできる2つの「安」を話されました。1つ目は「安全」、これは命を支えるシステムです。そして2つ目は「安

心」、これは心を支える人的ネットワークです。システムとネットワークで作る「安心」、今後の復興支援活動、並びに各種災害への対応で大切な点であると感じました。

地震や風水害など、近年災害と隣り合わせの私たちです。なぜ、僧侶はボランティアに向かうのか、僧侶とは何者なのか、しっかり話し合い、僧侶として何をすべきなのか考えながら帰路につきました。

文/広報副委員長 西古孝志

※藤本幸邦老師・・・長野県長野市円福寺住職、曹洞宗大本山布教師などを歴任。第二次世界大戦終戦後の戦災孤児救済活動に尽力、「円福寺愛育園」を設立し子どもたちを育成した。またカンボジアの学校寄付など、アジアの子どもたちへの支援活動に尽力した。平成21年寂(世寿100)。



第46回九州曹洞宗青年会総会

長崎大会

平

成28年6月7日、ワシントンホテル長崎(長崎市)で第46回九州曹洞宗青年会総会長崎大会が開催されました。

今回の震災を受けて当初「延期すべき」との声もありましたが、九州曹洞宗青年会須川会長の「大変な時だからこそ集まって皆で意見を出し合いましょう」という掛けに各県から賛同をいただき、当日は70人を超える方の参加がありました。

総会には、全国曹洞宗青年会より安達会長、原事務局長も出席され、福地春雄師(佐賀県曹洞宗青年会)を議長に選出し議事進行がなされ、以下の議案が提案され承認されました。

- 第一号議案 平成27年度事業報告
- 第二号議案 平成27年度会計報告
- 第三号議案 会計監査報告
- 第四号議案 平成28年度事業計画(案)
- 第五号議案 平成28年度予算(案)
- 第六号議案 その他

全ての議案承認の後、熊本県曹洞宗青年会の永野会長、大分県曹洞宗青年会の楠会長から今回の震災における各県の被害状況と避難所の様子、炊き出しや行茶等の活動報告があり、会員一同が改めて被災地の復興に尽力することを誓いました。



総会終了後、山梨県自性院住職、土井義尚師から「若年僧へのメッセージ、社会での働きかけ」という演題のもと、「これからの寺院・僧侶の在り方」についてご講演をいただきました。ご自身の陸上自衛官としてのご経験談や永平寺安居当時のお話、「日本地雷処理を支援する会」初代理事長としてカンボジア・ラオス・アフガニスタン・アンゴラでの地雷撤去作業に従事されたご経験を踏まえ、私たちが投げかける質問に丁寧にお答えいただきながらお話し下さいました。

総会・講演会の後、同ホテルで理事会が開かれ、各県に1台ずつ「炊き出しステーション」を購入する事や、今後も九州曹洞宗青年会が一丸となって被災地のために炊き出しや茶話会を継続して行っていくことを確認致しました。

全日程終了後、参加者全員で会食をしながら、これまでの炊き出し活動の反省点や今後の活動についての意見交換が行われ、大変な中にも意義のある総会となりました。

文/九州曹洞宗青年会事務局 浅岡俊孝

酒井大岳老師 最新刊『みちるべ 正しい生活 八正道シリーズ - 正命 -』

文言一例
「此一日の身命は尊ぶべき身命なり」
無量の諸仏します」



三十一の法語やことわざをやさしく解説

2017年用カレンダー解説書としてもお使い頂けます

体裁 四六判・一七六頁 ※送料は別途申し受けます



お盆・お彼岸等の施本に

＜ご注文・お問い合わせ＞
公益財団法人 仏教伝道協会
〒108-0014 東京都港区芝 4-3-14
TEL 03-3455-5853 <書籍担当>

価格 200 円 (税別)

※ホームページからもご注文いただけます

第28回曹洞宗北海道青年会全道大会

札幌大会



平 成28年6月13日、北海道札幌市の札幌パークホテルで、『第28回曹洞宗北海道青年会全道大会 札幌大会』を開催しました。

当日は、午後1時より受付を始め、午後1時30分より記念式典。式典では大会長である曹洞宗北海道青年会会長の神谷俊英師から「この北海道の地で、青年会が繋がりに続いて、人が集い、隣人があり、時に善知識となり、時に反面教師となり、互いに乳水と合し、これからも様々な課題問題と向き合って共に踏ん張って行きたい」との挨拶がありました。

午後3時から大会記念講演が開催されました。今回の記念講演の特別講師に戦場カメラマン、渡部陽一氏を迎え、『世界からのメッセージ〜平和と人命の大切さ〜』と題した講演が行われました。講演では、渡部氏独特の語り口と身振り手振りを交えた話が、聴講者の耳と目を釘付けにしていました。実際の取材で見た、戦場で生活している人々の家族の絆、人間が持つ愛の深さ、普段ニュースで見ている戦場と異なる一面を写真映像で紹介しながら語ってくださいました。今大会の記念講演は、会員のみならず、一般の方がたにも聴講いただけるように企画



し、当日は300人を超える一般聴講者が来場し盛会となりました。

また、記念講演の一般聴講者に全曹青ボランティア基金への募金願いの旨の趣意書を配布し協力を募りました。

午後5時から定期総会、午後6時30分から懇親会を開催しました。

懇親会の冒頭で、大会長より全曹青会長へ、全曹青ボランティア基金への募金目録を贈呈いたしました。記念講演の来場者からの募金額が125,174円。これに札幌大会出席者の参加費の一部を合わせ、総額275,174円を寄付しました。

懇親会の余興では、特別ゲストで2組の芸人が登場し、参会者の笑い声が会場を満ちました。会員相互に旧交を温め、懇親を深め、終始笑い声と笑顔が絶えない懇親会となりました。

今大会は、会員・来賓合わせて135人の参加となりました。次期開催宗務所は、北海道第三宗務所となります。次期大会も盛会円成となることを切に願います。

文／大会実行委員長 田村文英

社 寺 総合 建築
株式会社 **カナメ**
新築・改修・屋根工事・耐震

【本社】栃木県宇都宮市平出工業団地 38-52 電話：028-663-6300
【名古屋支店】愛知県一宮市森本 4-15-23 電話：0586-71-2882
【岡山営業所】岡山県岡山市北区西古松 1-9-8 電話：086-245-2541
ホームページ <http://www.caname-jisha.jp>

2015年 グッドカンパニー大賞【優秀企業賞受賞】

「生命(いのち)の物語」応援会社

清月記



執行部会・理事会

平成28年5月15日午後1時から、曹洞宗檀信徒会館4階「芙蓉の間」で執行部会、翌日の5月16日午前8時から同会場で理事会が開催されました。各委員会からの活動報告及び活動計画案、会計から平成27年度会計報告と平成28年度予算案が発表され、16日午後の定期評議員会に向け、協議が重ねられました。

次期会長選考委員会

5月16日正午から、曹洞宗檀信徒会館内で次期会長選考委員会が行われ、倉島隆行副会長を次期会長に推挙することが決定いたしました。

対応協議会議

5月16日午後1時から、曹洞宗檀信徒会館4階「萩の間」で平成28年熊本地震への対応協議会議が開かれました。

定期評議員会

5月16日午後2時から、曹洞宗檀信徒会館4階「芙蓉の間」で定期評議員会が開催され、議案や次期会長選考委員会からの報告の後、全ての議案について賛成多数により可決されました。

定期総会

5月17日午後1時から、曹洞宗檀信徒会館3階「桜の間」で定期総会が開催されました。安達会長を導師に本尊上供を厳修、宗歌斉唱の後、全員で各地自然災害での被災物故者に対し黙祷を捧げました。昨日の評議員会で可決した上記議案や次期会長選考委員会からの報告、熊本・大分地震について地元管区理事・曹青会会長から報告がありました。

中央研修会

5月17日午前10時から中央研修会「臨床宗教教師の取り組み」お坊さんって霊が見えますか？〜求められる青年僧侶の関わり〜を3階「桜の間」で行い、一般聴講者の方を含め多くの参加者が集いました。臨床宗教教師とは、宗教施設以外の公共空

間（医療や福祉施設など）で医療チームと連携し患者や利用者の方を対象とした活動を行うものであり、布教伝道を目的とせずその場所で行われる宗教的要望に対し、適切な対応を取るための研修を修了した宗教者とされます。

緩和ケアを実践していた故岡部健医師が提唱し、「あの世や目に見えない世界という合理性を超えた事象をそのまま語れるのは宗教者しかいない」との思いから終末期患者の心に寄り添う宗教者を養成するべく、養成講座を創設する大学が増えています。

今回は講師として2人の方が登壇され、最初に宮城県栗原市普門寺副住職で臨床宗教教師の高橋悦堂師は「僧侶として、臨床宗教教師になる」と題し、東日本大震災後の火葬場で読経供養を行う中での出会い、故岡部



健医師との交流など自身が臨床宗教教師となるまでの経緯を話されました。そして終末期患者とのエピソードを紹介し、臨床宗教師が果たす役割と「僧侶に対する良いイメージを先人たちが築き上げてくださったことに助けられている」と話されました。また参加者からの「傾聴に徹しながらも、宗教者としての話を積極的にしていくようなことはあるのか」との質問には「被災地での傾聴活動と同じように、接していく中で患者の方からそういう話を求められた時にするというスタンスです」と答えられました。

2人目の講師は埼玉県上尾中央総合病院の看護師で臨床宗教教師研修を受講された経験のある大島英子氏が担当されました。大島氏は2015年度から緩和ケア病棟で臨床宗教教師のボランティア受け入れ開始を実現しています。

「皆さんはどこで死を迎えたいですか」と会場に問いかけ、8割以上が自宅を希望と回答したのを受けて、実態は病院で最後を迎えるケースが8割であること、そして患者が望む最期を実現していくことが社会の課題であると指摘されました。死亡者数が増加していく社会で、患者の苦痛を和らげて生活の質（QOL）を向上させるために一人でも多くの僧侶の方が臨床宗教教師の道を進んで欲しいと呼びかけられました。

講演終了後はお二方に参加者から多くの質問が上がり、青年僧侶の関心の高さが窺われた実り多き研修となりました。

文／広報委員 織田秀道



第3・4回 味来食堂 基本の精進出汁と 旬の野菜料理を学ぶ

平成28年3月28日午前11時から第3回、平成28年6月7日午後7時から第4回「味来食堂」僧食を学ぼう」を、ともに東京グランドホテル（曹洞宗檀信徒会館）5階に会場に開催いたしました。

第3回は8人、第4回は14人の方が参加されました。第4回は約1年ぶりの夜開催ということもあり、参加希望も多くキッチンには熱気に包まれました。第3回はリピーターの方、第4回は初参加の方が多く、中には昨年取材を受け掲載された雑誌『クロワッサン』を読まれたことをキッカケに実際に精進出汁を自分で作ってみたり、インターネットで検索して今回の味来食堂に参加された方もおられました。

精進料理の基本的な考えを学んでから、実際にキッチンを使い、講師の河口智賢師、山崎元道師、齋藤紹俊師（以上、全国曹洞宗青年会教化法式委員会）、松本好寛特別講師（静岡県第一宗務所青年会）とともに調理に参加していただきました。

先ず基本となる定番の「精進出汁」について学び、その後、旬の野菜を使った料理を調理していきます。

調理中にも様々な質問が寄せられ、灰汁の扱い方、素材の味を活かす調理法、また当日には扱われなかった「山野草の調理」に関する留意点なども説明があり、参加者の方がたはメモを書かれたり、調理中の写真を撮影するなど、記



【第3回献立】

- ・アスパラ豆腐
- ・春野菜とエリンギの
- 精進ホタテ中華風炒め
- ・菜の花と豆腐の炒め煮
- ・季節のお吸い物
- ・麦ご飯

【第4回献立】

- ・モロヘイヤのお浸し
- ・夏野菜のかき揚げ
- ・茄子の冷やしすまし汁
- ・夏野菜のちらし酢飯
- ・豆乳胡麻プリン

録されていきました。山崎講師からは、調理の中で「料理によっては、体温を上げる料理もあれば、下げるものもあります。素材の特徴を活かし、食べる人のことを思い調理をすることも、『命を生かす』ということに繋がります」と参加者の方がたに語られていました。

完成した料理はお膳に丁寧にな並べ、姿勢を整え『五観の偈』をお唱えし、一つ一つの器を手に取り、それぞれの料理と向き合いながら精進膳をいただきました。

河口講師からは「今は季節・気候に関わらずほとんどの食材が入手できる時代がありますが、四季折々の食材の命をいただくことが、三徳六味の『淡味』にもつながります」と、旬の素材を頂戴することの意義について、参加者に語り掛けておりました。

文／広報委員長 宮入真道

滴禅会 刊行本 頒布の御案内

新刊 全く新しい高祖伝

『高祖伝私考』広録を中心にして

井上義臣 著 五五四頁 七千円（会員五千円）

別冊「高祖 行実眼蔵広録 対照年表」ふしぎな話

従来、全く不明であった空海大師観音院時代の行履、入越への道程、興聖寺焼亡、鎌倉行化と大倉経施入、神社との交感、土麻との交流、出家発願と父君などを一挙解明

合本『永平 高祖伝考』壹万四員八千円

「高祖伝私考」「高祖伝新考」伝戒を中心にして

「永平四世義演禪師伝考」の合本、左記の二巻は我部修之

「高祖伝新考」伝戒を中心にして 田刊 五千円

如浄血脈の発見、伝法伝戒式の意義、高祖の授戒法

「永平四世義演禪師伝考」田刊 千円

大仏寺と永平寺 三代相論の解明 高祖の孫弟子達の交流

檀信徒 『年忌聖典』折本 一六七頁 十冊一組 七千円（会員六千円）

○摩訶般若波羅蜜多心經 ○修証義 ○紺世音菩薩普門品 ○大悲心陀羅尼 ○舍利咒文 ○正法眼蔵通心 ○承闍大師發願文 ○如来寿量品 ○如来神力品 ○和訓 他

年忌を重ね故人は成仏路を向上します。従って経典も様々なものを読誦して差し上げたいものです。さもなくば、和尚は修証義しか読誦できぬと思われかねません。是非、御活用ください。

覆刻 『龍華』 杉本俊龍老師 著 本文 一七〇〇頁 二万五千円（会員二万円）

室内学・住職学の宗典。読み易い様に全項目別に編集

洞上修訂 『伝法悉知』 渡会仙定 佐藤邦雄 井上義臣 共著 一万七千円（会員一万三千円）

伝法伝戒の意義、作法が解ります。附録伝法室内儀軌折本、教授戒文、準備・進退図等、歎佛念法式折本（徳文・解説付）、三物（血脈、嗣書、御大事）、実物大手本、伝戒、伝法式壁書書架定

津送須知 九七五頁 九千円（会員七千円）

釋儀の意義作法など全てにわたり解説

戸羅会願訣 二冊組 七千円（会員五千円）

授戒を合法的な勧め方と意義

御注文は左記のいずれかへ葉書やファックス等で御連絡ください。尚、志種類二十冊以上の方の価格は、相談致します。

〒三六〇八〇二 栃木県足利市家富町二五三 幹事長 高福寺
電話 0284(2)6206 FAX 0284(2)6218
〒四三七〇三三 静岡県岡智郡森町中川四二二 事務局 雲林寺
電話 0538(4)6854 FAX 0538(4)6952



平成28年東大寺 仏法興隆

花まつり千僧法要



平 成28年4月26日、晴天の下、本年も奈良県東大寺で、「仏法興隆花まつり千僧法要」が厳修されました。

主催である全日本仏教青年会(以下、全日仏青)の加盟団体である全国曹洞宗青年会(以下、全曹青)からは、約130人が参加。全体では約500人も各宗派の僧侶が全国各地から集い、千僧法要をお勤めいたしました。午前10時から、東大寺大仏殿の東側にあるアシヨカピラー宝塔に各宗派から約50人の僧侶が集まり、周辺の清掃や獅子像の苔落としを行いました。

その後、威儀を整え、午後1時前に行列を組み、大仏殿に向かいました。大勢の観光客の方も、行列の様子を撮影されたり、合掌をされておりました。

大仏殿登壇の後、全日仏青の東海林良昌理事長が全ての法要を通しての導師として大仏前に座られ、開式の辞、惣礼、金峯山青年僧の会による法螺吹奏、天台仏教青年連盟による声明・散華の後、法要が各宗派により勤修されました。全曹青は「般若心経・大般若経転読・普門品偈」をお勤めいたしま

した。導師を務めた安達会長は、「大般若経理趣分」を転読し、仏法の興隆と世界平和、さらには各災害の復興祈願の祈りを捧げました。

引き続き、アシヨカピラー宝塔に移動し、南都二六会会長を導師に、花まつり法要が勤修されました。

法要後は、「熊本地震支援情報交換会」が行われ、各宗派の活動の様子や今後の支援について情報交換が行われました。

文／広報副委員長 西古孝志



平 成28年4月23日から5日間の日程でネパール仏教会(YMBA)が主催した慰霊復興法要と現地支援活動に参加しました。全日本仏教青年会が加盟している世

界仏教徒連盟(WFBY)の呼びかけもあり、各国から支援物資として子ども達へスクールバックや文房具、水筒など200セットを用意し学校など4カ所へ直接手渡しするイベントも開催され「今回は日本やマレーシア、台湾、タイの仏教国から皆さんへ支援物資を届けてもらいました」と紹介されると、皆一様に合掌され「ありがとうございます」と心からの感謝の言葉をいただきました。

また今回は世界各国で多発する大規模災害に対して寺院の果たす役割などについて話し合うシンポジウムも開催され、全日本仏教青年会国際委員長を務めている松岡広也師(全曹青19期会長)が登壇し、各国との支援活動の連携や情報共有の重要性について発表されました。

文／副会長 倉島隆行



5 月7日(土)・8日(日)と韓国の燃燈会(花まつり)がありました。韓国ではキリスト教も多いなか、ここソウルでは8割の寺院が曹溪宗で、90%以上が禅の系列とされています。

7日は、ソウルの大通りが規制され、お寺のメンバーや学生、各仏教国の代表らが集いパレードが行われます。手作りの大きな佛像モニュメントなど、何かしら仏教に関係しているものを作成し、言わば日本のねぶた祭りのような感じでパレードが行われました。

8日の各仏教国のブースは今年は48出店ありました。日本のグループとして、坐禅体験、抹茶、折り紙、日本の仏教書物の配布をしました。

この燃燈会を通して、日本がどのように受け入れられているか実感することができました。仏教行事として大規模な行事に参加させていただけたことに大変有難く感じています。

文／国際委員 大橋康道

こども笑顔ミーティング

1月31日 東京都大田区民ホール

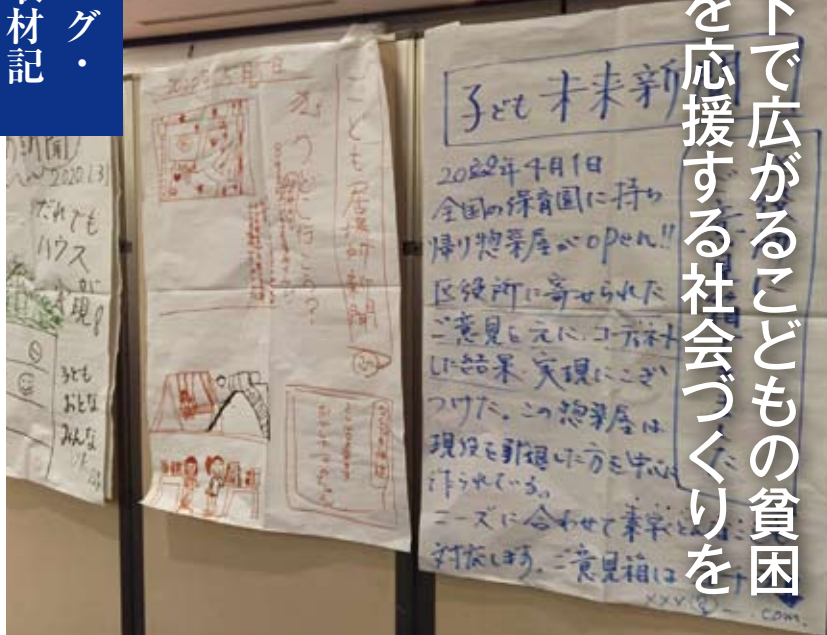
172号で取材させていただいた「こども食堂」主宰の近藤博子さんよりお誘いいただき、「第1回こども笑顔ミーティング」に参加してきました。

この団体は、今の子どもたちの置かれた状況を知り、そして子どもの成長を社会全体で応援する仕組みを作っていくことを目指して立ち上げられたものです。

水面下で広がるこどもの貧困 その成長を応援する社会づくりを



こども笑顔ミーティング・
おてらおやつクラブ取材記



第1部として、子どもの現状を知るために、児童養護施設のシスターなど3人の方からお話をいただきました。その後、第2部はワークショップを行いました。テーマは、「みんな考えてよう！子どもの居場所」ということで『子ども未来新聞』なるものを各グループで作成しました。この新聞は「今から何年後は子どもの居場所の為に社会がこうあってほしいな」と思う様子を表したものです。私が出たグループでは、2020年5月5日発行、『子ども居場所新聞』とタイトルをつけました。見出しは「きょうどこへ行こう？」とし、

この日この地域に20カ所目の子どもの居場所がオープンした、という内容です。もちろんその中には、お寺も子どもたちが気軽に立ち寄れる場所としてイラストで表現させていただきました。

他の新聞や参加者の方がたとお話をさせていただき、子どもの笑顔の為に良い社会を作っていくことについて改めて考えさせられました。

おてらおやつクラブ

2月2日 奈良県安養寺

東京でのミーティング参加の後には、おてらおやつクラブ代表・松島靖朗師にお話しを伺うべく奈良へ移動しました。

この活動は、お寺にお供えされる様々な「おそなえもの」を仏さまからの「おさがり」として頂戴し、全国のひとり親家庭を支援する団体との協力の下、経済的に困難な状況にあるご家庭へ「おすそわけ」する活動を行っています。

松島師がこの支援を始めるきっかけは、大阪で起きた母子の餓死事件とのこと。まさか飽食の日本で餓死する親子がいたとはとショックを受け、供物の有効活用を考えていたところ、この支援を思いついたとのことでした。当初は信者の方から、お寺にお供えしたはずのものが支援に回されることに懐疑的な意見もあったようですが、今では「これを使ってください」と仰られる方が増えたそうです。



おてらおやつクラブ代表・松島靖朗師

そして活動を行っている点はおすそわけすることに自己満足しないよう心掛けていることと話されました。非常に大事な点だと感じながら、奈良を後にしました。

こども笑顔ミーティング、おてらおやつクラブの取材を通して、日本における子どもの貧困の状況を知り、そこから自分自身何ができるのか考え行動し、笑顔溢れる社会にしたいものだと思いを新たにしました。

文／広報副委員長 西古孝志

※：この記事は173号で掲載予定でしたが、紙面の都合上今号に変更となりました。

全国曹洞宗青年会の活動は皆さまの賛助費に支えられております。

この度もご協力いただき誠に有難うございました。

226 常隆寺 様	114 東禪寺 様	122 石洞寺 様	180 中央院 様	738 善應寺 様	27 円通寺 様
231 円通寺 様	212 祥雲寺 様	123 寶城寺 様			504 達磨寺 様
246 長徳寺 様	228 瑞川寺 様	124 西光寺 様	◆山形県第1	◆秋田県	◆北海道第2
266 洞雲寺 様	293 梅溪寺 様	166 寶泉寺 様	210 宝鏡院 様	79 東林寺 様	241 孝徳寺 様
370 秀長寺 様	352 安永寺 様	185 長泉寺 様	224 長泉寺 様	85 寶圓寺 様	248 總泉寺 様
401 常楽寺 様	416 光岳寺 様	290 長泉寺 様		162 祥雲寺 様	299 永福寺 様
461 正法寺 様			◆山形県第2	206 松雲寺 様	359 東明寺 様
481 大有寺 様	◆岩手県	◆青森県	322 洞松寺 様	265 倫勝寺 様	
	7 永祥院 様	13 嶺松院 様		302 天昌寺 様	◆北海道第3
◆宮城県	17 清水寺 様	15 梅林寺 様	◆山形県第3	323 恩徳寺 様	140 東伝寺 様
16 林香院 様	23 清雲院 様	74 浮木寺 様	534 東福寺 様	353 安養寺 様	
29 秀林寺 様	31 喜雲寺 様	100 澄月寺 様	691 福應寺 様	◆北海道第1	
55 実相寺 様	106 万蔵寺 様	117 泉竜寺 様	708 光浄寺 様	7 宝琳寺 様	
113 繁昌院 様	111 西泉寺 様	120 円流寺 様	734 東光寺 様		

ボランティア基金感謝録

東京都 青松寺 様	静岡県 正泉寺 様	兵庫県 長楽寺 様	福島県 曹洞宗福島青年会 カレンダー委員会 様
東京都 永昌寺 様	愛知県 太平寺 様	岡山県 海徳寺 様	福島県 正法寺 様
東京都 泉岳寺 様	愛知県 寶泉寺 様	岡山県 濟渡寺 様	福島県 東禪寺 様
東京都 清巖寺 様	愛知県 寶珠院 様	岡山県 長川寺 様	福島県 宝積寺 様
東京都 曹洞宗宗務庁 様	愛知県 楞巖寺 様	広島県 東明寺 様	福島県 秀長寺 様
東京都 観栖寺 様	愛知県 岩蔵寺 様	広島県 福善寺 様	宮城県 梅溪寺 様
神奈川県 正翁寺 様	愛知県 神竜寺 様	広島県 西金寺 様	宮城県 林香院 様
神奈川県 寶泉寺 様	愛知県 興禪寺 様	広島県 吉祥寺 様	宮城県 東禪寺 様
神奈川県 長楽寺別院 様	愛知県 善昌寺 様	広島県 萬福寺 様	宮城県 繁昌院 様
神奈川県 宗久寺 様	愛知県 天徳寺 様	広島県 中興寺 様	岩手県 寶城寺 様
埼玉県 永福寺 様	岐阜県 悟春院 様	島根県 法蔵寺 様	岩手県 清水寺 様
埼玉県 東陽寺 様	岐阜県 靈泉寺 様	島根県 完全寺 様	岩手県 長泉寺 様
群馬県 祥雲寺 様	岐阜県 瑞巖寺 様	愛媛県 秀禪寺 様	青森県 泉竜寺 様
群馬県 龍海院 様	岐阜県 洞泉寺 様	愛媛県 西禪寺 様	青森県 澄月寺 様
栃木県 成高寺 様	岐阜県 清江寺 様	福岡県 報恩寺 様	青森県 中央院 様
茨城県 金仙寺 様	岐阜県 円頂寺 様	大分県 豊音寺 様	青森県 浮木寺 様
茨城県 寺族寺内京 様	三重県 四天王寺 様	大分県 羅漢寺 様	山形県 東福寺 様
茨城県 龍心寺 様	三重県 劍光寺 様	大分県 洞昌寺 様	山形県 東光寺 様
千葉県 廣濟寺 様	三重県 地蔵院 様	長崎県 太平寺 様	山形県 福應寺 様
千葉県 宗胤寺 様	三重県 常安寺 様	佐賀県 本光寺 様	秋田県 洞雲寺 様
千葉県 萬蔵寺 様	京都府 円覚寺 様	熊本県 明德寺 様	秋田県 安養寺 様
静岡県 宝持院 様	京都府 善光寺 様	宮崎県 台雲寺 様	秋田県 東林寺 様
静岡県 光用院 様	京都府 禪福寺 様	宮崎県 水月寺 様	秋田県 補陀寺 様
静岡県 宝珠院 様	京都府 久昌寺 様	鹿児島県 鹿児島県 曹洞宗青年会 様	北海道 總泉寺 様
静岡県 盤石寺 様	京都府 西光寺 様	長野県 徳心院 様	北海道 龍興寺 様
静岡県 養勝寺 様	大阪府 大黒寺 様	長野県 岩松院 様	北海道 東伝寺 様
静岡県 元長寺 様	兵庫県 臨川寺 様	長野県 長昌寺 様	北海道 宝琳寺 様
静岡県 耕月寺 様	兵庫県 長福寺 様	新潟県 雲居寺 様	北海道 泰源寺 様
静岡県 福王寺 様	兵庫県 石像寺 様	新潟県 長楽寺 様	北海道 達磨寺 様
静岡県 盤脚院 様	兵庫県 向榮寺 様	新潟県 普光寺 様	
静岡県 喜徳庵 様	兵庫県 兵庫第一宗務所 寺族ボランティア 様	新潟県 大榮寺 様	
静岡県 龍雲寺 様			

〔 賛 助 費 浄 納 御 芳 名 簿 〕

平成28年4月1日～平成28年6月30日取扱い分

◆東京都

18 大泉寺 様
51 泉岳寺 様
56 嶺雲寺 様
70 永昌寺 様
154 増福寺 様
177 清巖寺 様
232 薬師寺 様
287 龍見寺 様
294 観栖寺 様
345 正法院 様
371 円明寺 様
386 竜昌寺 様
駒澤大学
高等学校 様

◆神奈川県第2

5 天徳院 様
18 宝泉寺 様
27 東林寺 様
83 正翁寺 様

◆埼玉県第1

41 東栄寺 様
44 宝持寺 様
92 浄山寺 様
99 常源寺 様
114 東陽寺 様
181 長光寺 様
392 報恩寺 様

◆埼玉県第2

227 東陽寺 様
271 龍泉寺 様
336 永福寺 様
368 東昌寺 様

◆群馬県

3 龍海院 様
89 竜昌寺 様
144 雙松寺 様
163 鳳仙寺 様
167 祥雲寺 様

◆栃木県

1 成高寺 様
36 妙見寺 様
43 東光寺 様
161 東陽院 様
167 興福寺 様

◆茨城県

14 玄勝院 様
39 常安寺 様
69 金仙寺 様

134 大統寺 様
166 東光寺 様
182 龍心寺 様
197 長竜寺 様

◆千葉県

2 宗胤寺 様
7 満蔵寺 様
8 重俊院 様
74 廣濟寺 様
93 芳泰寺 様
159 宝聚院 様
185 勢國寺 様
212 真光寺 様
243 最勝福寺 様
271 永明寺 様
296 東善寺 様
315 雲竜寺 様

◆山梨県

392 慈照寺 様

◆静岡県第1

7 元長寺 様
19 光用院 様
26 宝珠院 様
61 長光寺 様
152 宝持院 様
185 三明寺 様
202 先照寺 様
421 盤脚院 様
464 正泉寺 様
528 盤石寺 様
541 喜徳庵 様
558 泉龍寺 様

◆静岡県第2

228 耕月寺 様
332 龍雲寺 様
362 福泉寺 様

◆静岡県第3

608 養勝寺 様
988 福王寺 様

◆静岡県第4

1122 林泉寺 様

◆愛知県第1

7 全香寺 様
18 大運寺 様
108 香積院 様
109 善昌寺 様
112 太平寺 様
120 宝珠院 様

127 龍潭寺 様
131 天年寺 様
147 成道寺 様
148 法泉寺 様
173 神蔵寺 様
229 寶泉寺 様
261 薬師寺 様
313 長松寺 様
340 興禅寺 様
375 春江院 様
606 向陽寺 様
607 林宗寺 様
625 宝積寺 様
629 神竜寺 様
633 岩蔵寺 様
635 永澤寺 様

◆愛知県第2

684 花井寺 様

◆愛知県第3

428 宝珠院 様
523 本光寺 様
557 楞嚴寺 様
562 慈光院 様

◆岐阜県

5 悟春院 様
60 龍雲寺 様
99 靈泉寺 様
108 玄霜寺 様
116 永泉寺 様
122 大竜寺 様
133 福寿寺 様
148 円頂寺 様
162 清楽寺 様
188 洞泉寺 様
189 久昌寺 様
190 長久寺 様
223 大覚寺 様
227 清江寺 様
237 瑞巖寺 様

◆三重県第1

24 一心院 様
37 四天王寺 様
38 傳法寺 様
59 長樂寺別院 様
60 正念寺 様
83 涼泉寺 様
114 海禅寺 様
183 光徳寺 様
269 大蓮寺 様
284 常安寺 様
316 剣光寺 様

◆三重県第2

408 東正寺 様

◆滋賀県

178 洞源寺 様

◆京都府

46 栄春寺 様
79 神応寺 様
80 西光寺 様
222 久昌寺 様
236 善光寺 様
238 洞楽寺 様
367 福昌寺 様
386 徳運寺 様
389 萬福寺 様

◆大阪府

14 慈光寺 様
22 観音寺 様
26 天徳寺 様
38 慈願寺 様
100 南詢寺 様
104 拾翠寺 様
107 実相院 様
114 大黒寺 様

◆兵庫県第1

287 向榮寺 様
341 常嚴寺 様

◆兵庫県第2

121 徳寿寺 様
149 瑞光寺 様
198 石像寺 様
217 長福寺 様
221 永源寺 様

◆岡山県

2 海徳寺 様
3 長川寺 様
131 済渡寺 様
166 善福寺 様

◆広島県

1 国泰寺 様
3 養徳院 様
13 延命寺 様
34 吉祥寺 様
46 双照院 様
60 香積寺 様
76 長福寺 様
86 西金寺 様
95 泉龍寺 様
100 中興寺 様

143 常林寺 様
149 萬福寺 様
177 功德寺 様
181 東明寺 様

◆山口県

24 吉祥寺 様
111 溪月院 様
145 久屋寺 様

◆鳥取県

114 安楽寺 様

◆島根県第2

43 福正寺 様
63 龍覚寺 様
70 完全寺 様
93 法恩寺 様
111 万蔵寺 様
121 法海寺 様
140 法蔵寺 様

◆愛媛県

18 陽春院 様
113 西禅寺 様
135 秀禅寺 様
146 興雲寺 様
174 掌禅寺 様

◆福岡県

28 桂木寺 様
158 報恩寺 様

◆大分県

8 豊音寺 様
134 長安寺 様
175 羅漢寺 様

◆長崎県第1

4 光雲寺 様
78 宝泉寺 様

◆長崎県第3

95 太平寺 様

◆佐賀県

117 本光寺 様

◆熊本県第1

13 浄国寺 様

◆熊本県第2

88 明徳寺 様

◆宮崎県

12 台雲寺 様
34 水月寺 様
54 善栖寺 様

◆長野県第1

65 柳原寺 様
86 円福寺 様
147 徳応院 様
227 岩松院 様
322 守芳院 様
372 長昌寺 様
587 観音庵 様

◆長野県第2

375 龍雲寺 様
512 浄蓮寺 様

◆福井県

27 竜沢寺 様

◆富山県

54 大淵寺 様

◆新潟県第1

344 玄德寺 様
350 定光寺 様
358 円光寺 様
368 正通寺 様
389 雲居寺 様
439 林興庵 様
445 永林寺 様
496 長楽寺 様
728 妙喜寺 様

◆新潟県第3

535 普光寺 様

◆新潟県第4

186 竜沢寺 様
236 東岸寺 様
253 長楽寺 様
255 龍阜院 様
295 普濟寺 様

◆福島県

2 長楽寺 様
43 東禅寺 様
46 龍傳寺 様
93 長光寺 様
94 松蔵寺 様
99 茂林寺 様
101 成林寺 様
104 成願寺 様
110 龍徳寺 様

face of 全曹青

心の傾聴委員会 紹介



福永剛彦 委員長
鹿児島県曹洞宗青年会

今期から常設委員会となりました当委員会は、『笑顔の君とかなじ空を見上げて』のスローガンに基づき、傾聴を通して現代社会の中で苦悩する人びとに笑顔が生まれる事業を展開して参りました。『いのちの声に耳を澄ます』という理念で開設し8年目を迎える青年僧侶による電話相談事業『観世ふおん』を、毎週日曜日22時～24時全国各地24人の相談員で運営しています。広報委員会と連携した活動により相談件数が大幅に増加したことから、窓口を増設し年間約1500件のさまざまな相談を受理しました。若い女性からの相談も多く

必要性を再認識する1年となりました。

また1月に滋賀県彦根市清涼寺様で開催した、傾聴に対する意識の啓発を目的とする『傾聴研修会』には、多くの会員だけではなく、宗務所長老師をはじめとした滋賀県内御寺院様や他宗派の青年僧侶にも参加をいただきました。参加者からは、耳を傾け、聴くことが難しい、傾聴について深く考える機会となった、研修会を通して新たな気づきや重要性を再確認出来たなどの感想や、定期的な開催を望む声も多く、参加者・講師を務めた電話相談員それぞれに実りあるものとなりました。

折り返しも過ぎ残り少ない任期となりましたが、今後も青年僧侶が苦悩する人びととまっすぐに向き合い、聴くという手段と姿勢を学ぶ研修会の開催を予定しています。さらには現代社会で今求められている傾聴の実践、新たな視点を委員と共に参究してまいりたいと思います。



中川光真 副委員長
四国地区曹洞宗青年会

四国地区曹洞宗青年会から前期(執行部庶務)に続き参加させていただいております。私事ではありますが、自坊では2年前より盆踊りを始めました。一からスタートの為、最初は小さな輪が少しずつ大きくなっていく事に、有難いご縁を感じております。全曹青では全国各地の諸先輩方始め、多くの方と出会い、たくさんの研鑽できる機会をいただけてます事に心より感謝申し上げます。この有難いご縁の輪を大切に、しっかりとお話を聴かせていただき、微力ながら一杯精進してまいりたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。



真如大貴 委員
北海道第三宗務所青年会

北はオホーツクから今期、初めて参加させていただきました。2年目に入ったばかりでまだまだ日は経っておりませんが、聴くことの難しさを痛感しております。これからも、電話相談や傾聴研修会等を通して、僧侶としての能力向上はもちろん、話を聴くという菩薩行を実践し共に考え学んでいきたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。



石井哲臣 委員
曹洞宗埼玉第二宗務所青年会



橋春昭 委員
曹洞宗鳥取県青年会

静岡県東部を中心にお寺様の植栽や清掃・個人基地の清掃等を承っております。
(障がい者が活躍しているHACDラッグの特例子会社です。)

株式会社 CFSサンズ

【静岡事務所】 〒411-0944
静岡県駿東郡長泉町竹原 390-7
TEL 055-991-6025 FAX 055-991-6026
CFSサンズHP <http://cfs-suns.co.jp>

青年僧侶による電話相談

全国曹洞宗青年会 観世ふおん

どんなことでも、あなたのお話をそのままお聴かせください。

☎080-2729-2398 ☎080-1546-7464
☎080-1547-5646

※いずれかの番号へお気軽にお電話ください。

毎週日曜日の夜▶22:00~24:00

- * 個人の秘密は必ず守られます。
- * お名前、ご住所などはお話しする必要はありません。
- * 相談は無料です(通話料のみ)

あなたのお悩み 一生懸命聴かせていただきます

これまでこの連載では、第1回で述べた

「仏の教えの何(what)をどのように(How)伝え、相手にとってこの教えがどのように機能するか?」の「伝え方」に関して記してきた。しかし、同じように伝えてもちゃんと伝わる人と、そうでない人がいることは自明であり、相手に合わせた態度が必要であることは言うまでもない。そこで、今回は伝える対象となる「他者をどう理解するか?」という点について例をあげて述べていきたい。

今年の5月21日付の毎日新聞に「子供の心、深い傷…乱暴な言葉、赤ちゃん返りも」と題した記事が掲載され、ヤフーニュースをはじめとするネットニュースでも配信されたことで、熊本地震の避難所の現状が多くの人の目に留まり話題となった。その記事は、地震発生からおよそ1ヶ月が経過した熊本県益城町の避難所で、5時間ほど子どもたちと過ごした記者の体験を元にしており、ある中3女子生徒に背負われた小4女児が、当該記者に「おい、クソジジイ。お前、

偉そうだな。偉そうに、このオッサン」といった攻撃的な言葉を延々とぶつけてくる姿や、小3男児も体が接触しただけなのに「おい、足蹴るなよな。コラ」と突っかかり、他の子に新聞記事を見せていると「ジイサン、ジイサン、オジサン、オジイサン。コラ、俺にも見せろ」と暴言を吐く様子が克明に記されていた。

なかなかショッキングな記事である。被災地での子どもたちのそうした反応に、意外な印象を受ける方もいることだろう。

4月14日から16日にかけて、震度6以上の極めて大きな揺れが7回も連続して観測された熊本地震。特に記事の現場となった益城町では、2日間のうちに2度の震度7を経験するなど、今までにない事態に直面した。震度7に耐えられるように耐震構造を備えた住居でも、2回目の揺れに耐えられるようには出来ていない。何も知らず自宅に戻り、2回目の揺れで倒壊に巻き込まれた方もおられ、建物の中は信用できないと車中泊での避難生活を選択する被災者も多く見られた。

このように、一瞬にしてそれまでの日常が失われ、突如として不自由な生活が始まるという大きな環境の変化を余儀なくされた方がた。そんな環境に身を置く子どもたちの暴言を我々ほどのように理解すれば良いのだろうか?

実を言うと、この子どもたちのように「暴言」という形で外向きに自己の心情を表現するケースは、生活の中で大きな負荷がか

かった人において、そう珍しいことではない。記事の中では、保護された被虐待児が受容的な態度の大人(社会福祉施設職員や里親)に対して行う「試し行動」、つまり「心に深い傷を負って不安や恐怖を抱え込んだ子が、大人がどこまで許容するのかを試す無意識の行動」と説明をしていたが、私が臨床心理士として専門にしている行動論の立場では、これとは異なる説明の仕方となる。

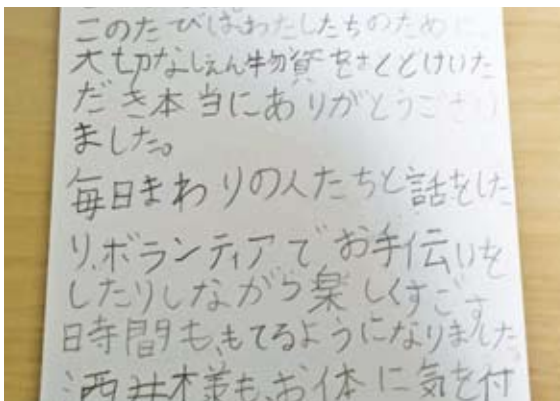
ざっくり言うと、その子の行動がどんなメリットによって維持され続けているのか分析するのだが、その際、おおよそ問題行動と呼ばれるものの維持要因は、「その行為の結果、他者の注目を獲得する(注目獲得)」「その行為の結果、自分の要求が通る(要求)」「その行為の結果、嫌な状況から一時的に回避できる(回避)」「その行為自体に有益な意味合いが生じる(自己刺激)」の4つの機能で説明がつくと考える。

基本的には実際の行動を見なければ明確に分析することはできないことをお断りした上で、今回の記者に対する子どもたちの「暴言」を見てみると、「注目獲得」と「自己刺激」あたりが機能していそうである。前者は、注目を集めることで大変な思いをしている自分を構ってもらえることで自尊心が満たされ、後者は、記事で専門医が「自分を勇気づけるため攻撃的な言動をよく取る」と語るように、自立して強く生き抜こうと自分で自分を奮い立たせる意味合いが生じている。とは言え、子どもたちの暴言が続けば、自身も被災者である余裕のない大人たちのイ

ライラはさらに増加し、双方にとって良いことにならないことは容易に想像できる。

では、どうすれば良いか。行動論の考え方では、暴言の代わりに、同じ機能を持った適応的な行動を子どもたちが獲得できるように支援を行う。ただ、ここでその詳細を説明するには紙幅が足らず、今回のテーマからも外れるので割愛させていただく。

さて、暴言を吐きつつも、記者に甘えまわりつく子どもたち。慢性的な不安に苛まれると、この子どもたちに限らず、誰でもあっても攻撃性はエスカレートする。ゆえに、「暴言」という一側面だけを見て、間違っても「嫉のなっていない子ども」などと理解してはならない。相手に伝わる言葉で伝えるためには、関心を持って寄り添い、色んな側面から知ろうとすることが大切なのである。



酒井副会長に届いた、熊本市砂取小学校を代表した小学4年生からの手紙

和田善明師の遷化を悼む

(第12期全国曹洞宗青年会副会長)

去る5月13日、鳥根県太田市、宝隆寺住職、和田善明師(60歳)が遷化された。

突然の悲報であった。師は駒沢大学大学院修士課程を修了し、大本山永平寺に安居。その後、長崎県の皓臺寺専門僧堂の講師を務められ、平成9年に第12期全国曹洞宗青年会副会長としてお力添えをいただいた。

今でもはつきりと記憶していることがある。電話で副会長をお願いしたときのこと、電話の向こう側から瞬時に「いいですよ、私で良ければ」と返事をいただいたことだ。迷いのない彼らしい受け答えに、私は信頼を寄せ心強く思った。

平成11年3月、北海道札幌市で開催された禅文化学林「青年僧にのぞむ」のパネルディスカッションでは、望まれるパネラーの一人として登壇し、しっかりとした意見を発言された。師の発言は常に論理的に整理され、非常にわかりやすく人に伝わった。また一方では欠点の指摘にも厳しかった。そこには師の培ってきた揺るぎない尺度があり、毅然とした姿勢がかえって私には清くしく思えた。ここに和田師が残された一文を引いて師の遺徳を偲びたい。

「法輪転ずるところ食輪自ずから転ず」

これが、住職を拜命して以来の私の信じているところ。生活よりも先に、仏法を行ずることを考え、教義を学び、教義を語り、教義を行じていく僧侶でありたいと思っています。

第12期全国曹洞宗青年会副会長 寿松木宏毅

全曹青18期会長 久間泰弘師が、正力松太郎賞青年奨励賞を受賞されました。



平成28年5月31日、曹洞宗檀信徒会館を会場に「久間泰弘師 正力松太郎賞青年奨励賞受賞記念祝賀会」が開催され、宗門関係各位、成林寺様関係各位、青年宗侶、関係団体からの来賓各位を合わせ100人以上の方が集い、久間師の受賞を祝うとともに、活動を労わりました。

久間師は、全国曹洞宗青年会会長を務めた18期にスローガン『いのちの声を澄ます』を掲げた通り、苦悩する人びとの伴走者となることを実践し続けてこられました。

特に平成23年の東日本大震災発災直後からは、自らの師寮寺である伊達市成林寺様も被害を受けた状況の中、宗門内外の仏教青年会をはじめ、一般個人・団体を含む多くの方がたと協働して復興支援活動に尽力されました。成林寺様に現地支援本部を設置し炊き出しや傾聴活動に尽力され、また平成25年に発足した「チャイルドラインふくしま」の開設に尽力されました。

久間泰弘師プロフィール

1970(昭和45)年生。曹洞宗龍徳寺住職。

全国曹洞宗青年会では、16期広報委員長、17期副会長、18期会長(平成21年5月〜平成23年5月)、19期顧問を歴任。平成23年5月〜現在、災害復興支援部アドバイザー。

平成25年5月〜現在まで、曹洞宗東日本大震災復興支援室分室主事。東日本大震災発災後は、災害復興支援活動に従事する一方、大規模災害・社会の急速な変化の中で不安や悩みを抱える子どもたちの心の声を聴く電話窓口「チャイルドラインふくしま」の開設に尽力。現在、「チャイルドラインふくしま」事務局長兼理事。

この『SOUSEI』174号で平成28年熊本地震後の情報を発信することを決定した後、熊本県曹洞宗青年会の永野会長、大分県曹洞宗青年会の楠会長、九州曹洞宗青年会の須川会長、同会の浅岡事務局長には、長崎大会や炊き出しでご多忙の中、無理なお願いをお受けいただきご寄稿いただきました。また、曹洞宗熊本県第一宗務所の岩崎梅花主事(前全国曹洞宗青年会副会長)には、表紙などの写真の提供をいただきました。誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。

地元熊本を中心に、九州各県の方がたが、また全国各地から駆け付けた方がたが、時には僧侶同志一致団結し、或いは一般のボランティアの方と共に、炊き出しや瓦礫撤去など様々な活動を通して被災された方を支えておられました。私たちも、共に活動、また支援させていただくと共に、広報誌・ホームページなどを通して情報を発信してまいります。

全国曹洞宗青年会 広報委員会一同

「お詫び」

【訂正】前号(173号)の表紙上部に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

誤：そうせい第171号平成27年11月発行
訂正：そうせい第173号平成28年5月発行